オキ　冷寒語とすれば，ongi，oki は凍る．風語から解けば woki の oki で暴れとなる．転じて暴れるところの海上が沖となる．山地では暴れ風，海岸では沖風．隱岐，波岐（因幡）興玉祠（伊勢）置賜（羽前）＝暴れ冷（オイタマ）．興津，沖津＝沖風（オキツ）．

オロシ．暴ろ（オロシ）風の転の orosi，元元は強風のこと．オロシベは暴風吹（オロシベ）．それが山から吹き下ろす風となり，颪の文字が作られた．下嵐江（陸中）＝暴風吹（オロシエ）．

カマイダチ．kamai はつむじ，datti は突風（タツ）で，旋突風のこと．

出し風．突を tot と読む原語は韓語の dat，tat のなまり，datsi は突風となる，それが出しとなまったもの．

ジゲ．dji は湿潤の意．そのジル，ジタは泥濘から汁，代となっている，風語では雨気の風．このジが地となり，地風となっている．転じて，湿ける　海のしけ．重川（甲斐）重岡（豊後）茂森（陸奥）茂安（肥前）

タカとサガ　．佐賀＝多賀は冷めたの意．気象崇拜の信仰では，上空ほど冷寒の度が高いことから転じて，上空をタカ，サガと呼ぶ様になった．原意は冷風．なまってタカは上空の北風．サガは上空からの下り風となっている．

高松（備中，安芸，讃岐）＝冷風吹（カカマツ）．高丸山（岩代，陸前）＝冷風吹山（タカマル）．高尾＝冷風吹（タカオ）・高向（越前，河内）＝冷風吹（タカムク）＝多加牟久．

相模＝佐賀美＝冷風（サカミ）．佐方，相方＝冷風（サカタ）＝坂田．酒田

東尋坊．悪僧東尋坊の恨みの悪風と恐れられているが，実は突陣風で烈しい突風．

ベット風．hoi の he は韓語の旋風．too は烈しく吹くの意．なまって betoo は烈しい旋風となる．愛知の知多，碧海，三重の志摩，吉津，靜岡の田方等の風語．

ヘーシ．大風の終りに，今までとは反対の方向から吹く強烈な風を，南嶌喜界嶋ではヘーシと云う．旋風の hoi が he となり，風は si で，旋風のこと．また出雲語．

ネコツ．北風．ネは雪，ネコは雪降り，ツは風ゆえ，雪降り風となる．

根子地（美濃）．猫間（山城）＝雪降風（ネコマ）．猫間嶽（岩代）．根本，根元（下総，常陸）＝雪風吹（ネモト）．

ネギタ，北風（島根，福浦，美濃小野その他）もともとは雪風であるが，磁石の指針の北が，子に当ることから，眞北風と解釈されている．

シモカゼ．　青森県の各地に，北風や北東風に，シモ(12)を冠する風語がたくさんにある．シモオヒは霜追の意で，上に対する下ではない．

(11)　シモカゼ「風資」P. 60.

地名に資母郷，信茂郷，征茂郡があり，下を冠する地が多数にあるが，その中には，風吹くの動詞の漢字の原，俣，元．丸村，守，枝を伴うので，下は気象語であると見られる．

韓語で凍える寒さの単語が tchi，その形容が tchim となる，方言のチミタイがそれ．それがなまれば sibu，simu となり，凍（シ）ばれ，凍みる，氷のシガの志賀，霜となる．それで，志波，紫波，斯波，柴，芝，子浦，四保，塩，志布，渋，志摩，志万，四万，新万，島，紫美，四明…等の地名は，いずれも，嚴凍の地と見られる．ところが，それらの語尾が助詞ではなく，風語の ba，ma のなまりと見れば，凍風（シマ），凍風（シモ）となるので，風語が地名となっている所もあると云え様．

以上は今も尚使われている風語の解析である．風，風吹くの古代語は bal 系の言葉であり，元々 dʒa 系の言葉は霧，霞を意味したものであった．それが，揺り動かすのカンジェが風を意味する様になって，bal 系の言葉は忘れられたと見られよう．それで，

加佐	加曾	加須	加志	加世
波佐	波曾	波須	波志	波世
阿佐	阿曾	阿須	阿志	阿世

等の展化及びその関連語は，いずれも霧，霞を意味する古代語であったことになる．その解析は稿を改めて説明する．

（北方民俗研究所）

最近冷害記録

1953（昭和 28 年）　6～8 月の日照不足，6 月中旬，7 月中旬，8 月下旬から 9 月上旬にかけての低温．稲の收穫減北海道 24 %，東北 15 %

1945（昭和 20 年）　5 月より 6 月上旬，7 月の低温に加え，台風の被害，戰時中の肥料不足も加わる．稲の收穫減全国平均 35.6 %，反当收量 1.353 石

1941（昭和 16 年）6～9 月の低温，多雨，日照不足．稲の收穫減北海道 35 %，全国平均 17 %

1935（昭和 10 年）　特に北海道の被害甚大．稲の收穫減 39 %

1934（昭和 9 年）　東北地方，北海道は大正 2 年に次ぐ大冷害．稲の收穫減全国平均 17 %

1931（昭和 6 年）　天候不順にて凶作．稲の收穫減北海道 48 %，東北 10～40 %

1913（大正 2 年）東北地方，北海道早冷．稲の收穫減北海道 50 %，東北地方 30 %

1905（明治 38 年）稲收穫減北海道 35 %，全国 18 %